

授業科目	老年看護学概論	専任教員☆ ①柴山 真由美 外部講師☆ ②安達 智紀	単位数	1	時期	1年次 5月～7月	DP	1 2
			時間数	30				
目的と目標	<p>高齢者を身体的老化のみならず、その人の人生や影響を受けた社会変動、環境などの多様性と高齢社会の動向を知り、高齢者の健康と生活を支える基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>1 老年期の特徴を捉え、老年看護の対象が総合的に理解できる。  2 加齢に伴う高齢者の健康状態の変化について理解できる。  3 社会構造の変化、高齢化にともなう老年医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。  4 高齢社会の現状と老年看護における倫理的課題が理解できる。  5 老年看護学の必要性と意義について理解できる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方法	担 教 員			
1 2 3 4 5	老年期にある対象の特徴	(1) 加齢に伴う変化 ①身体的側面の変化 ア 老化の要因・原因 イ 身体的特徴 ウ 高齢者疑似体験 ②心理的側面の変化 ア 知的側面 イ 情緒的側面 ウ 人格の変化 ③社会的側面の変化 ア 社会的役割 イ 家族内役割 ウ 経済力		講義  体験演習 講義	専任教員 (柴山 真由美)			
6 7		(2) 発達課題とスピリチュアリティ  (3) 高齢者の多様性 ①生活習慣・生活様式の多様性 ②価値観の多様性 ア 高齢者のライフストーリー ③高齢者の性 ア 性への社会的偏見 イ 性機能の生理的变化		講義  講義 GW				
8	(1時間)							
9 10	老年期を生きる人々の健康	(1) 高齢者にとっての健康 (2) 高齢者の健康の危うさ ①高齢者に多い疾患 ア 健康指標に見る高齢者の特徴 イ 疾患から見た高齢者の特徴 (3) 高齢者の生活を整える ①高齢者の生活の場の多様性 ア 各生活の場の理解 イ 生活環境を整える必要性		講義	専任教員 (柴山 真由美)			

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
11 12	高齢者医療保健福祉の動向と現状	(1) 高齢者ケアシステムを支える制度 ①介護保険制度 ②老人保健法・福祉法 ③高齢者虐待防止法 ④日常生活支援事業 ⑤成年後見制度 (2) 保健医療福祉サービスの構成 (3) 老人保健医療制度による医療費 ①後期高齢者医療制度 (4) 公的年金制度	講義	外部講師 (安達智紀)
13 14	高齢者を取りまく社会	(1) 高齢者と家族 ①高齢者と家族のライフサイクルの変化 ②家族形態の変化 ③高齢者と家族の関係 (2) 高齢者における倫理的課題 ①権利擁護 ②高齢者虐待 ③身体拘束・身体抑制 (3) 高齢者のリスクマネジメント ①高齢者と災害 ②災害時の心理的状況の理解	講義	専任教員 (柴山 真由美)
15	老年看護の特徴と意義	(1) 老年看護学の位置づけと意義 ①人口学的指標からの老年期理解 ②老年看護学の目的・目標 (2) 老年期の総合的な理解 ①自己の老年観	講義 GW	専任教員 (柴山 真由美)
	試験 (1 時間)			
評価方法	筆記試験 100 点 (1～10・13～15 回 : 80 点、11・12 回 : 20 点)			
教科書 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) *その他、提示する資料			
準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題について、期限を厳守して提出すること。			
☆担当教員 の経歴	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②社会福祉士として施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	高齢者の生活を支える援助技術	担当教員	専任教員☆ ①柴山 真由美	単位数	1	時期	1年次 9月～11月	DP	1 2 3 4
			外部講師☆ ②神谷 紗綾香 ③吉田 仁	時間数	30				
目的と目標	<p>加齢変化や老年期特有の健康障害に対して、解決もしくは生活への影響を最小にするための基礎的な知識と看護方法を学ぶ。</p> <p>1 高齢者の特徴を踏まえて対象に応じたコミュニケーションのあり方が理解できる。</p> <p>2 治療を継続しながら生活する高齢者の特徴と支援方法が理解できる。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担 当 教 員			
1	高齢者に特徴的なコミュニケーションと看護	(1) 高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則			講義 臨床判断	専任教員 (柴山真由美)			
2		(2) 高齢者にみられるコミュニケーション上の特徴							
3	高齢者に特徴的な食生活の変調と看護	(3) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション能力のアセスメントと方法			講義 演習	外部講師 (神谷紗綾香)			
4		①感覚機能障害をもつ高齢者とのコミュニケーション							
		②言語障害をもつ高齢者とのコミュニケーション							
		③その他原因によるコミュニケーション							
5	高齢者に特徴的な食生活の変調と看護	(1) 高齢者における食生活の意義			講義 演習	歯科衛生学 科専任教員			
6		(2) 高齢者に特徴的な変調							
		(3) 食生活のアセスメント			講義	専任教員 (柴山真由美)			
		(4) 食生活の支援 ①咀嚼・嚥下障害のリハビリテーション ②多職種での支援							
7	高齢者に特徴的な排泄の変調と看護	(5) 口腔ケア ①口腔内の変化と特徴 ②口腔ケアに対する援助			講義	専任教員 (柴山真由美)			
		(6) 脱水予防 ①脱水になりやすい要因・背景 ②高齢者の脱水症状の特徴 ③脱水の予防と看護							
		(1) 高齢者の排泄ケアの基本			講義	専任教員 (柴山真由美)			
		(2) 排尿障害のアセスメント ①尿失禁の分類と要因 ②失禁が生活に及ぼす影響 ③尿失禁のアセスメント							
		(3) 排尿障害に対する援助 ①尿失禁に対する用具の選択 ②オムツ交換 *			演習 *摘便演習 時に行う				

回数	学習課題	内 容	方 法	担 当 教 員
8	(3 時間)	(4) 排便障害のアセスメント ①便秘の原因と症状 ②便秘と便失禁 ③下痢	講義	専任教員 (柴山真由美)
9		(5) 排便障害に対する援助 ①排便 * ・高齢者の皮膚の特徴を踏まえた援助	演習	
10				
11	日常生活を支える基本的活動のアセスメントと看護	(1) 生活リズム、休息・睡眠 ア 高齢者の睡眠パターン イ 不眠の原因とアセスメント ウ 生活リズムを整える援助	講義	専任教員 (柴山真由美)
12		(2) 日常生活動作 ア 日常生活活動の評価 イ ADL 障害の発生要因・背景 ウ ADL 障害のもたらす影響 (3) 生活リハビリテーション		
13		(4) ADL を高めるためのケア 高齢者の介護予防の実際	講義	外部講師 (吉田 仁)
14	転倒のアセスメントと看護	(1) 転倒のアセスメントと看護 ①高齢者の転倒の特徴 ②転倒・転落リスクのアセスメント ③転倒予防に向けた援助 ④転倒が発生した時の看護	臨床判断	専任教員 (柴山真由美)
15	廃用症候群のアセスメントと看護  試験 (1 時間)	(1) 廃用症候群のアセスメントと看護 ①高齢者と廃用症候群 ②廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護	講義	専任教員 (柴山真由美)
評価方法	筆記試験 100 点 (1・2、6～15 回 : 70 点、3・4 回 : 20 点、5 回 : 10 点)			
教科書 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) 看護過程に沿った対症看護 (学研) 系看専門 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤リハビリテーション看護 (メディカ出版) *その他、提示する資料			
準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題について、期限を厳守して提出すること。			
★担当教員 の専任経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③介護支援専門員として施設で勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	健康障害をもつ 高齢者の看護	担当教員	専任教員☆ ①柴山 真由美	単位数	1	時期	1年次 12月～2月	DP	1 4
			外部講師☆ ②藤原 富子 ③高坂 香奈子 ④横山 礼	時間数	30				
目的と目標	<p>高齢者に特有な機能障害を理解し、高齢者への看護の方法を学ぶ。</p> <p>1 認知機能が低下した看護について理解ができる。</p> <p>2 高齢者を生活者として捉え、生活機能を整えるための思考過程が理解できる。</p> <p>3 受療状況に応じた高齢者の看護が理解できる。</p> <p>4 人生の終末を迎える高齢者に対する看護について考えることができる。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担 当 教 員			
1	認知症高齢者の看護	(1) 認知機能が低下した高齢者の看護 ①認知症の病態理解 ②認知症の症状 ③認知症の治療と予防 ④認知機能および生活機能の評価			講義	専任教員 (柴山真由美)			
2		(2) 地域の中での認知症高齢者への支援			講義	外部講師 (藤原富子)			
3									
4		(3) 認知機能が低下した高齢者への看護の実際 ①認知症看護の原則 ②認知症高齢者とのコミュニケーション方法 ③認知症高齢者の環境調整			講義	外部講師 (高坂香奈子)			
5	生活機能の維持・向上の ための看護展開	(1) 脳・神経機能障害がある高齢者の看護過程 ①脳梗塞の病態理解 ②対象の理解 ③生活機能のアセスメント ④看護の焦点・看護問題の明確化 ⑤計画立案			講義 GW 個人ワーク	専任教員 (柴山真由美)			
6									
7	(15時間)								
8									
9									
10									
11									
12									
13	受療状況に応じた高齢者の看護	(1) 外来を受診する高齢者の看護 (2) 薬物治療を受ける高齢者の看護			講義	専任教員 (柴山真由美)			
14	終末期にある高齢者の看護	(1) 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア ①アドバンス・ケア・プランニング (ACP) ②本人・家族への支援			講義	専任教員 (柴山真由美)			
15	試験 (1時間)	(2) 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアの実際				外部講師 (横山 礼) 専任教員 (柴山真由美)			

評価方法	筆記試験 80点 (1、5～15回:50点、2・3回:20点、4回:10点) 提出物(看護過程) 20点 合計 100点 *再試験の場合、筆記試験100点分で評価する。
教科書 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) 系看専門Ⅱ 成人看護学⑦脳・神経 (医学書院) 看護過程に沿った対症看護 (学研) 看護に役立つ検査辞典 (照林社) 系看 臨床検査 (医学書院) 終末期看護: エンド・オブ・ライフ・ケア (メヂカルフレンド社) *その他、提示する資料
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題について、期限を厳守して提出すること。
☆担当教員 の実務経験	①②③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④看護師として介護老人保健施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。